



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



赤沢自然休養林でのオオヤマレンゲの植樹（写真中央がミス日本みどりの女神と上松町長（右））

「木曾悠久の森」祈念植樹と 写真コンテスト表彰式を開催

主な項目

- ミス日本みどりの女神が「木曾悠久の森」で植樹…………… P2
- 各地からのたより …………… P7
- シリーズ「森林官からの便り」 …………… P8
- シリーズ「ご当地自慢」 …………… P10

ミス日本みどりの女神が

「木曽悠久の森」で植樹

【木曽署】秋の涼風が吹き始めた九月十八日、ミス日本みどりの女神が「木曽悠久の森」の玄関口ともいえる赤沢自然休養林（長野県木曽郡上松町）を訪れました。ミス日本みどりの女神は、第四十七回ミス日本コンテストで初めて創設された賞で、平成二十七年度は静岡県出身で東京農業大学四年の佐野加奈さんが選ばれ、みどりと木への親しみを広める役割を担う活動をしています。

当日は、地元の上松町長やNPO法人木曽ヒノキの森の関係者らとともに、上松町花であるオオヤマレンゲの植樹を行いました。オオヤマレンゲは、真っ白なかわいらしい蕾をつけ、ほのかな甘い香りを放ち、別名を「天女花」ともいい、「この花の咲く所には、甘い香りに誘われて天女が舞い降りる」という話が伝わっています。

植樹に参加した地元関係者は、「『木曽悠久の森』は、貴重な森や木曽ヒノキを保護する有意義な取組であり期待している」「昨年木曽谷では南木曽町の土石流や御嶽山の噴火災害があり観光客が減少しているところへ、ミス日本みどりの女神が天女花とも呼ばれるオオヤマレンゲを植樹してくれたことは、地域の人へも明るい話題として届けることができる」と話していました。

「木曽悠久の森」写真コンテスト表彰式

【計画課】九月十九日、長野県主催の「人と生きもののつながり創生全国フォーラム」が木曽文化公園文化ホールで開催され、フォーラムの一環として中部森林管理局が実施した「木曽悠久の森」写真コンテストの表彰式が行われました。写真コンテストには九十一名の応募作品があり、十六作品が入賞されました。

表彰式には十二名の方が参加し、ミス日本みどりの女神のアテンドのもと中部森林管理局長から表彰状の授与、木曽観光連盟ほか共催団体の代表者等からそれぞれ副賞が贈呈されました。表彰式の後、別室にて受賞者九名とミス日本みどりの女神が参加した懇談会を開催しました。

参加した受賞者から「女房にヒノキ笠をかぶらせて先を歩かせたのがよかったかな」「木曽地域を応援したかったので受賞できてたいへんうれしい」などの感想が述べられました。ミス日本みどりの女神から「皆様、受賞おめでとうございませう。表彰式で皆様が喜ばれている姿がとても印象的で、このような場に参加できたことを大変うれしく思います」と感謝の言葉を述べられました。



最優秀賞作品の「森の散歩道」



懇談会での受賞者との記念写真
(前列中央が最優秀賞を受賞した上松町の野田光雄さん)

謝の言葉が述べられました。

中部森林管理局では、今後も「木曽悠久の森」の保存や復元、さらには利用を通じて木曽地域の振興に貢献できるように検討を進めながら、多くの方に「木曽悠久の森」を知っていただくための催しを開催していくこととしています。

(写真コンテストの結果は、中部森林管理局のホームページでご覧いただけます。)

平成二十七年国固有林モニター会議
(現地見学)の開催

【企画調整課】九月十日、木曽森林管理署管内において、国有林モニター会議(現地見学)を開催しました。

最初に、木曽郡王滝村の御岳国有林濁川の治山の現場に向かいました。現地では、昨年九月の御嶽山噴火に伴う土石



御嶽山噴火に伴う緊急除石対策の現地説明

次に、同じ王滝村内の氷ヶ瀬土場に移動し、木曽森林管理署上田企画官より木曽森林管理署における素材販売事業の概要、木曽谷の山と森の歴史及び木材販売の流れについて説明するとともに、木曽ヒノキ丸太を見ながら品等の鑑定方法や高齢級人工林ヒノキの「高国木曽ヒノキ」の販売等について紹介しました。

流災害対策として設置した土石流センサー・監視カメラや緊急除石対策工事について、また、現在実施中の復旧治山工事の概要や昭和五十九年の長野県西部地震災害の復旧等の取り組みについて、木曽森林管理署梅田総括治山技術官より説明を行いました。



木曽ヒノキについて説明を聞く参加者

その後、場所を木曽町開田高原の新高国有林に移し、カラマツ人工林の素材生産事業地を見学しました。現地では、北沢主任森林整備官から事業内容を説明した後、事業を請負っている木曽協和産業（株）による伐倒、プロセッサによる造材作業を見学しました。

この現地見学会では、国有林モニターの皆様から「治山ダムの目的が分かった」「御嶽山噴火災害等大変厳しい現場での復旧工事に感心した」、また、土場では「木材の見方が分かった」「木曽ヒノキの育成が必要である」、素材生産現場では「プロセッサによる造材作業が見られて良かった」「機械化により若い林業労働者が増えることを期待する」といった感想や意見が寄せられました。

中部森林管理局では、モニターの皆様

から今回いただいた貴重なご意見を、今後の国有林野の管理経営に活かしていきたいと考えています。

引き続き、モニターの皆様のご理解とご協力をお願いします。

「公益的機能維持増進協定」を締結

【計画課】平成二十五年度から一般会計化された国有林野事業には、これまで以上に森林・林業行政の課題の解決に向けた取組が求められています。その一環として、これまでは共同施業団地の設定により民有林との協働を推進してきましたが、平成二十四年の法改正により、「公益的機能維持増進協定」が新たなツールとして加わりました。

国有林内に介在したり隣接する民有林の中には、小規模で孤立分散しているなどの理由により、森林所有者による管理・経営が困難なものがあります。

「公益的機能維持増進協定」は、こうした民有林の森林整備を国有林と一体的に実施することにより、水源涵養^{かんよう}や土砂流出の防備等の公益的機能をより高度に発揮させることを目的とした制度です。

具体的には、森林管理局長が民有林の森林所有者と協定を締結して、当該民有林について国有林と一体的に整備・保全を実施するものです。

九月十六日、北信森林管理局において、中部森林管理局内では初の「公益的

機能維持増進協定」の締結式が執り行われました。対象となった民有林は二箇所。それぞれ木島平村と信濃町に所在する介在地です。



協定締結後の桂川局長（中央）と森林所有者の方々

協定締結にあたり桂川局長から「一般会計の下での国有林は、地域の、そして日本全体の森林・林業行政の課題への貢献を常に考えて業務を行うことが必要である。中部局として初めて本協定を締結したことは意義深いものであり、我々も意を新たに民有林との連携について取り組んで参りたい」との挨拶がありました。

また、森林所有者の方々からは「長い東京生活から帰郷し、所有する森林のことはよくわからなかったが、北信署の職員から何度も説明を受ける中で森林整備の大切さを認識した」「親から引き継いだ森林を、ちゃんと手入れされた形で、

しっかりと後世に引き継いでいきたい」といった言葉をいただきました。両名とも、北信署職員の熱心な働きかけがあったからこそ、協定を締結する気になれたとのことでした。

この協定の対象の民有林については二年度後に国有林とともに間伐を行うことが予定されています。

ニホンジカ被害対策現地検討会

【技術普及課】ニホンジカ被害対策として平成二十三年度から取り組んでいる「囲いワナ」による捕獲については、年々捕獲頭数は増加しているものの、費用対効果からみると成果が上がっているとは言えない状況となっています。

九月九日、囲いワナの今後の取り扱いを検討するため、東信森林管理局及び南信森林管理局管内において有識者、行政機関、猟友会等が参加して被害対策現地検討会を開催しました。

午前は、「囲いワナ」の設置状況の確認、これまでの捕獲状況や出没状況、信



現地説明

州大学と連携して取り組んでいるデコイ（囿）として設置したニホンジカの模型）を設置して誘引効果を検証する取り組み等について説明しました。

午後からは、長和町和田コミュニティセンターにおいて、国立研究開発法人森林総合研究所の小泉透氏から「囿いワナの特徴」について、信州大学農学部 泉山茂之氏からは「ニホンジカの季節移動」についてそれぞれ講演をしていただき、その後、参加者による意見交換を行いました。



意見交換

意見交換での主な意見は、「囿いワナの構造的には問題ないが、その前の段階（設置場所の選定など）に問題がある」「森林内に大型の囿いワナを設置している例はまれ」「森林内では成果が上がらないのではなく、囿いワナの能力に限界があるのでは」などの意見が述べられました。

今回の検討会で出されたこれらの意見については、今後、「中部森林管理局ニホンジカ被害対策プロジェクトチーム」等において、対応策を検討する参考とすることとしています。

木質バイオマス等の

木材活用現場を見学！

「名古屋事務所」名古屋事務所は、九月十日に管内の森林整備官等を対象に「木質バイオマス及び市売り市場の見学会」を開催し、管内から十四名が参加しました。



(株)岐阜バイオマスパワー・
(株)バイオマスエナジー東海見学

今回の見学会は、川下の木材利用の現場を知ることと山側・国有林現場での森林整備等の指導にフィードバックすることと職員のスキルアップを目的に行いました。見学会所は、昨年十二月に本格稼働した岐阜県瑞穂市の(株)岐阜バイオマスパワー・(株)バイオマスエナジー東海と岐

岐阜各務原市の広葉樹を主体とした平野木材の市売りの現場です。

木質バイオマス発電の現場を見学に当たっては、森林内に放置されてきたD材等の未利用材の利用実態・活用事例等について、参加者らに質問を事前に整理させた上で、見学会に参加しました。

また、平野木材の市売りの見学に当たっては、普段はスギ・ヒノキ・マツ類の採材方法、価格、売り先などは業務上で多く扱っているものの、広葉樹については、治山・林道支障木等で取り扱う機会も少なく、苦手な部分であることから、広葉樹の市売りを見学しました。



平野木材(株)での市売りの様子

参加者からは、広葉樹の採材方法、流通ルート等について質問が出されました。普段、国有林の職員は、「立木」は見ているものの、出口の流通・加工部分

がハッキリ見えていない傾向があります。

見学会では、普段、疑問とされていることの解消が進み、有意義な見学会であったと感じています。

また、復命書を活用し、見学会で得た情報の職場内での共有に努めました。こうした職員向けの見学会を行うことで川下の状況に対応した、山側での指導力の発揮等に役立てるとともに、職員のスキルアップにつなげていきます。

木曽・王滝支援イベント

「木曽川源流の森を訪ねて」を開催

「木曽森林ふれあい推進センター・木曽署・名古屋事務所」八月二十九日から三十日、木曽郡王滝村をはじめ、木曽地方の豊かな自然・文化を通じて、森林・林業・水資源についての理解を深めていただくことを目的に木曽・王滝支援イベントを開催しました。

この催しは、木曽の源流を巡るツアーとして「公益財団法人おんたけ休暇村」と連携し、当局、木曽広域連合との共催により開催したものです。

木曽川下流域の方々を中心に呼びかけ、名古屋をはじめとした愛知県、岐阜県等から十五名の参加者と、ガイド等を行う国有林職員六名により実施しました。出発地の名古屋事務所では出発する直前に隣接する「熱田白鳥の歴史館」において、林業の歴史と木材利用促進を

テーマとした展示の見学や、車中では「かつては三百日をかけて熱田白鳥まで木材が運ばれていた」ことなど、木曽の林業の歴史や生活についての事前学習をしつつ木曽路に入りました。



製材工場を見学

まず一行は、南木曽町にある勝野木材(株)を訪ねました。間伐材から一貫生産する製材ラインやモデル住宅を見学し、勝野智明社長から、「森を守り育てるには適切な間伐が大切で、森林の整備は、水源涵養、土砂の流出防止、温暖化防止などに役立っている」と、間伐により山を守り育てることの大切さをわかりやすく説明していただきました。

続いて、水資源機構愛知用水総合管理所牧尾ダムを見学しました。小河所長より、愛知用水牧尾ダムは木曽川水系の水資源として愛知県・岐阜県に、農業・工業・水道用水を供給する大事業が行われ

た歴史について説明がありました。

また、噴火災害の対応として、ダム湖に灰が流れ込むかどうか注目していると説明がありました。

最後に、長野県西部地震復旧地や昨年の噴火災害での土石流に備えた堰堤工事の様子等を木曽森林管理署の担当から説明を受けた後、王滝村の宿泊地へ移動し明日への英気を養いました。



地震災害復旧地見学

二日目は、赤沢自然休養林を散策しました。森林鉄道に乗りし「丸山渡停車場」で下車後、職員のガイドにより木曽五木の説明、森林の成り立ち、森林セラピー、御神木伐採地、森林資料館等を見学し、江戸時代から約三百年余の時を刻み、見事に成長した木曽ヒノキが鬱蒼と生い茂る林内を散策し、木曽の林業の歴史や運材方法などを学びました。雨の中赤沢自然休養林でしたが、ゆったりと



木曽五木の見分け方を学ぶ参加者

した時が流れる情景を味わいました。

参加者からは、「製材工場を見学して、間伐材がこれほど活用されていることは良いことだ」「王滝村は初めて訪れたが緑が多くて空気もうまい。ダム建設の苦労を知り、上下流のつながりを強く感じた」「道の駅で、木曽の野菜や特産品が買えたことも小さな支援に協力出来て良かった」と感想が寄せられました。

「中部森林管理局総合防災訓練」を実施

「企画調整課」九月一日、中部森林管理局において総合防災訓練を実施しました。昨年度は、七月九日に南木曽町土石流災害、八月十五日からの高山市等の豪雨災害、九月二十七日に御嶽山噴火災害、十一月二十二日に長野県神城断層地震災害が発生し、その都度、災害対策本部を設置し対応してきました。

中部森林管理局では、これまでも毎年度防災訓練を実施してきましたが、今年度は、これらの災害対応の教訓も踏まえ、災害発生時における迅速かつ適切な対応の確認・習得を目的に、農林水産省統一訓練の一環として災害発生情報の伝達、職員の徒歩等による参集、対策本部の設置運営、職員・請負事業体の安否確認や災害情報の収集・対策検討等の訓練を実施しました。



総合防災訓練の様子

訓練は、朝七時半から十二時にかけて、大規模地震による停電や通信障害等を想定し、発電機、衛星携帯電話、伝言ダイヤル等も使用し、関係機関への職員派遣やヘリコプターを活用した緊急調査など実際の災害時の対応をイメージして行われました。

この訓練で得られた知見を活用して、

災害時における迅速かつ適切な対応が図られるよう取組みを改善していきます。

中部局インターンシップを 各署で実施

【総務課 研修】 学生が中部森林管理局の実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めていただくことを目的として、平成二十七年中部森林管理局におけるインターンシップを八月三日から九月十一日の間、北信署、中信署、南信署、木曽署、飛騨署、岐阜署の六署で、学生一〇名を受け入れて実施しました。次の記事で、北信署と岐阜署がその状況を紹介します。

【北信署】 農林水産省就業体験（インターンシップ）を九月七日から十一日までの五日間の日程で実施しました。当署では岩手大学農学部・共生環境課程三年生一名を受け入れましたが、今回は、地元の長野県下高井農林高等学校から二名（グリーンデザイン科二年生、三年生各一名）も就労体験として受け入れました。

当署では、インターンシップの受け入れは初めての経験でしたが、体験内容は森林官の実務ガイドを基に、現場での実践的な業務を中心にしたカリキュラムとしました。

開講式終了後、署長室で、安全指導、

当署管内の概要説明等を行い、早速、現場に出て現地実習を行いました。

就業体験では、貸付地の現地確認、第一種境界標の巡検、セオドライト（トランシット）の取扱い、造林事業における監督・検査等補助業務（工程調査等）、除伐作業、収穫調査箇所の周囲測量及び毎木調査、製品生産事業の監督補助、素材検知、高性能林業機械の見学、治山・林道での監督補助業務及び治山現場での丸太枿谷止工（木製校倉式）、林業専用道新設工事の見学、保護林（戸隠森林植物園内）での植物保護バートル等多岐にわたって業務を体験しました。



輪尺を使用しての収穫調査

折しも、台風十七号、十八号の接近により生産現場が休止となったため、北欧製のホイール型高性能林業機械が実際に作業する様子を見ることは叶いませんで



採材及び素材検知の説明を受ける研修生

したが、実物の機械を目の当たりにした研修生は、その大きさや機能に驚いていました。

インターンシップ終了後、研修生からは「現場での実習は初めて体験する内容が多く、今後の進学、就職において大変参考になった」「森林管理署の幅広い業務内容に驚いた。林業や治山事業等に対する意識が一層高まり、理解を深めることができた」「熱心な講義をしていただき、有意義な時間となったことに感謝します」等の感想が寄せられました。今回は、三名体制になったことで共同作業ができたことから、連帯感も醸成されたようでした。

指導した職員からは、「複数の研修生がいたことでモチベーションが上がり有意義だった」との報告もあり、短い期間ではありましたが、学生、職員とも貴重な経験でした。



製品生産事業地を見学

個々には、金華山国有林内の登山道がボランティア団体等を含め様々な方々の力で維持されていること、生産現場では林業の生産性の向上等地域林業の活性化に向けた取組についても実施しているこ

【岐阜署】 八月二十四日から二十八日の五日間、岐阜大学及び岐阜工業高等専門学校（岐阜）の学生二名を受け入れ、現場業務の就業体験を行いました。カリキュラムは、金華山国有林での登山道補修と境界巡検、板取川民直治山事業地での監督業務、越原国有林での生産事業の監督業務と原木市場見学、七宗国有林での獣害対策、金華山国有林でのデジタルコンパス測量について体験していただきました。

参加した学生は、まず、森林管理署の事業が多岐にわたっていることに驚いたようでした。

と、獣害対策では地域と一体となって取り組みを進めていること等について体験を通じて理解していただきました。

また、獣害対策やデジタルコンパス測量では、当署の職員も参加して実施したことから、職員の技術向上への取り組みについても理解していただきました。



デジタルコンパス測量を実施

学生からは、「森林の役割は多様であり重点的に発揮されるべき機能に応じ、きめ細かな管理経営を行っていることが理解できた」「どの業務もいろんなことを理解しないと仕事は出来ない。本を読むことも重要だが、これからは山に行き実際に目で見て勉強したい」「治山事業について見学し、自分の将来やりたいことになった」との力強い感想と、この期間の感謝の言葉をいただき全日程を終りました。

ボランティアによる木工教室を開催

「名古屋事務所」 八月二十四日、「熱田白鳥の歴史館」と、隣接する「郷土の森」で地域住民を対象とした木工教室が、ボランティア（自称、森と木の達人グループ「フォレストサークル・あいち（FCA）」）の指導により実施されました。

昨年来、歴史館に來訪される方の中から、「気軽に森林整備をしたい」「自由な社会貢献活動に取り組みたい」といった相談が名古屋事務所に寄せられていました。今春、こうした共通の志を持った一般市民の方々が結集、FCAと命名し、森林整備等ボランティアとして活動が始まったものです。

このたび、歴史館をフィールドとして市民を対象とした「夏休み！木工教室」の催しを提案され、歴史館内の木工クラブコーナーや名古屋林業土木協会が設立五十周年記念事業として整備された「郷土の森」の林内で、丸太切りなど林



丸太切りを初体験



組み立てて座り心地を確認

業体験を行うこととなりました。

当日は、残暑厳しいクスノキの木漏れ日の下、家族連れの参加者十六名が、FCA八名の指導により、丸太切りや切った丸太で「ペン立て」づくり、木工クラブコーナーでは「ミニイス」や「マイ箸」づくりなどを行い、木（樹）との触れあいを楽しみました。

今回の催しはFCAが募集チラシの作成から当日の運営まで主体的に取り組み、名古屋事務所の展示館を通じた情報発信のサポーターとして今後の取り組みに期待されています。

各地からのたより

濁川復旧治山工事

「現場見学会」の開催

「木曽署」 九月二十四日、昨年九月二十七日の御嶽山噴火から一年の節目を迎えるにあたり、王滝村濁川において治山工事現場見学会を開催したところ、地元王滝村の住民のほか下流域の方々、関係機関の担当者合わせて約四〇名の参加

がありました。

当日は、濁川展望台から一九八四年（昭和五十九年）に発生した長野県西部地震の災害復旧の現状と、この土石流対策で設置した治山ダム群により火山灰を含んだ土石流が減勢された様子を遠望した後、濁沢（洗い越し）へ移動し、昨年の噴火後に発生した土石流の痕跡が残る様子を間近で見させていただきました。



治山工事の概要を説明する梅田総括治山技術官

その後、今年度施工中の治山ダム工事現場へ案内し、署担当者からパネル等を使い工事概要や進捗状況の説明を行いました。説明を聞きながら熱心に質問をする方やメモを取る方がいるなど、改めて地元住民の皆さんの関心の高さを感じました。

参加者からは、「土石流対策の現場を自分の目で見て安心した」「安心して暮



現場見学会の様子

らせるよう一日も早く完成させてほしい」等の感想や意見が寄せられました。

御嶽山噴火に伴う土石流対策については、治山ダムを王滝村御岳国有林濁川で二基、木曽町三岳黒沢御岳国有林倉本湯川で一基を計画しているところですが、今年度は、王滝村濁川については治山ダム一基の約四〇％、木曽町三岳の治山ダムは今年度の完成を目指して施工中です。

長野県においても、王滝村濁川下流において砂防堰堤一基を計画しており、地域の安全・安心の確保のため関係機関が連携して早期完成に向け取り組むこととしています。

中央アルプス

「山のお仕事」学習会

〔南信署〕八月二十九日、国交省天竜川上流河川事務所と南信森林管理署の合同

で宮田村の小中学生を対象に『中央アルプス「山のお仕事」学習会』を駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム砂防情報センターにおいて行い、小中学生合わせて八名が参加し、中央アルプスで行われている砂防堰堤工事や治山工事など、人々の暮らしを守るための「山のお仕事」について学びました。

当初は、屋内で学習会を行った後、黒川国有林において現在国交省が建設中の黒川第四砂防堰堤と、伊那谷総合治山事業所において実行した伊勢滝治山施設の現地見学を予定していましたが、当日はあいにくの雨天となり、砂防情報センターでの学習会のみの実施となりました。



熱心に説明を聞く小中学生

小中学生は、当署職員から、森林の働きや治山施設の役割について説明を受け、合わせて行った森林土壌における実

験では森林の働きを見て学び、また、天竜川上流河川事務所職員や砂防堰堤の工事業者から、土砂災害を防止するための砂防堰堤の役割について学び、砂防堰堤工事に使用される高所法面掘削機の映像には驚きの声を上げていました。

その後行った木工体験教室では、間伐材に電熱線を使って絵を描いたり表札を作るなどして、木とのふれあいを楽しみました。

今回の学習会に参加した小中学生は、真剣に職員の話に聞き入り、積極的に質問するなど、「山のお仕事」の役割と重要性は確実に伝わったと感じました。

今後もこのような機会を通して小中学生に森林の働きについて理解を深めてもらおうと取り組みを重ねていきたいと考えています。



〔南信署 伊那里森林事務所〕

首席森林官 大溝敏哉

伊那里森林事務所は、長野県伊那市長谷(旧上伊那郡長谷村)に位置し、南アルプス登山の玄関口として、毎年、夏山シーズンを中心に多くの登山客で賑わっています。また、近隣には桜の名所として全国的に有名な高遠城趾公園やパワースポットとして注目される分杭峠(ゼロ磁場)があります。

当森林事務所は、南アルプスの北側部

分を占める黒河内、浦、塩沢の各国有林約二〇、二〇〇鈔を管轄しており、塩見岳、鋸岳、甲斐駒ヶ岳(東駒ヶ岳)、そして仙丈ヶ岳等二、〇〇〇鈔から三、〇〇〇鈔級の雄大な美しい山並みがそびえ立ち、時々、雷鳥も姿を見せてくれます。



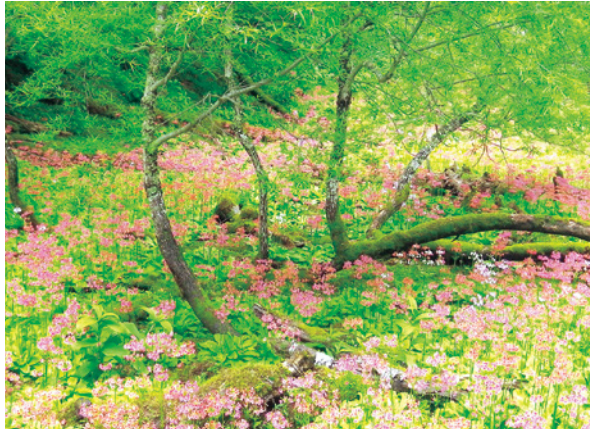
姿を見せた雷鳥

昨年度は、南アルプスが国立公園に指定されて五十周年の節目をむかえ、更にはユネスコエコパークやジオパークに登録されるなど記念の年となり、地元、伊那市では記念行事等が盛大に行われました。

しかし、この、おめたい出来事の反面、南アルプスで最も深刻な問題となっているのがニホンジカによる食害です。

全国のいたるところでも社会的問題となっていますが、当森林事務所部内においても、同様に深刻な問題です。

このため、南アルプスの貴重な高山植物をニホンジカから守るために、平成十九年度に設立された南アルプス食害対



可憐に咲くクリンソウ

策協議会（環境省、信州大学、長野県、伊那市そして南信森林管理署等関係機関で構成）が、平成二十年度から毎年、七月に仙丈ヶ岳（馬の背周辺）において、防鹿柵設置作業をボランティアも加わって実施しており、今年で、八回目となりました。本来であれば高山一帯が美しい花畑のはずが、十年程前からニホンジカの食害の影響により、一転して土むき出しの状態に変わりはて、荒地となつてしまいました。このため、毎年、地道に同協議会関係者（南信署職員も積極的に参加）の活動を続け、その、努力により少しずつ植物は回復傾向にあります。

このほかにも、当森林事務所部内のことから、平成十九年度から毎年、十月から十一月の狩猟解禁日前日の間、地元



防鹿柵ネット張り替え作業の様子

ており、ニホンジカが現れそうな林道沿線に、くくり罠を仕掛け、捕獲、駆除作業を行っています。最近の実績は、平成二十五年度が七十頭、昨年度は四十三頭を捕獲しました。今年度も、一頭でも多く捕獲、駆除を行いたいと考えています。

最後に、今年度も当森林事務所部内の各国国有林において、製品生産をはじめ、造林、治山、林道等の請負事業が集中しています。数ヶ月後には、雪の季節を迎える頃となり、各請負業者の方々も最後の追い込みに入ってきています。

常に安全意識を保ち、現場巡視の際は請負業者にも今以上に気を配り無事故・無災害で業務を遂行するよう努めていきます。

人のういき

中部森林管理局人事

九月二十三日付

▽休職（東濃署主任事務管理官）
安江清文
（平成二十七年十月二十三日まで）

九月三十日付

▽退職（応募認定）（木曽署森林官（開田担当区））
清水岳志

▽退職（応募認定）（木曽署森林技術員（木曽福島森林事務所））
巾 泰三

▽休職（局総務企画部（総務課共済組合係））
吉原多恵子
（休職の期間を平成二十七年十二月三十一日まで更新する）

林野庁人事（抄）

十月一日付

▽林野庁林政部林政課広報官（中部森林管理局東濃森林管理署長）
間島重道

▽中部森林管理局東濃森林管理署長（林野庁国有林野部経営企画課課長補佐（森林環境保護班担当））
高塚慎司

▽中部森林管理局岐阜森林管理署流域保全治山対策技術官（岐阜西部治山事業所）（中部森林管理局計画保全全部治山技術専門官）
牧田政敏

▽中部森林管理局計画保全全部治山技術専門官（中部森林管理局計画保全全部専門官（災害調整））
曾我義孝

▽中部森林管理局計画保全全部専門官（災害調整）（中部森林管理局岐阜森林管理署総括治山技術官）
小瀬弘一

中部森林管理局人事

十月一日付

▽林野庁出向（計画保全全部専門官（災害調整））（岐阜署総括治山技術官）
小瀬弘一

▽計画保全全部計画課生態系保全係長（企画調整課情報管理係長）
井上日呂登

▽林野庁出向（林野庁林政部木材産業課付）（計画課生態系保全係長）
山本武郎

▽岐阜森林管理署流域保全治山対策技術官（岐阜西部治山事業所）（計画保全全部治山技術専門官）
牧田政敏

▽林野庁出向（計画保全全部治山課流域保全治山対策専門官）（治山課設計指導官）
野田和浩

▽東濃森林管理署総括治山技術官（岐阜署流域保全治山対策技術官（岐阜西部治山事業所））
奥村 豊

▽岐阜森林管理署総括治山技術官（東濃署総括治山技術官）
稲垣明敏

▽林野庁出向（林野庁林政部木材利用課）（東濃署）
上田茉由

行事・会議等の予定

◎木曽の国有林見学会（秋季）

11月5日 上松町

◎中部森林管理局有志協議会連絡協議会

11月13日 松本市

◎会計検査院実地検査

11月16日～11月19日

岐阜署・伊那谷総合治山事業所・局



鏡池より戸隠連峰を望む

◆戸隠そば
戸隠そばは、一般に、長野県長野市戸隠（旧戸隠村）の蕎麦を指し、岩手県のわんこそば、島根県の出雲そばとともに、日本三大そばの一つとされている。



そば屋が並ぶ戸隠の街道の様子

山岳信仰の栄えた戸隠は、古くから修験者が多く集まって来ており、その携行食料として戸隠に入ってきたと言われ、当時は、現在のような蕎麦切りではなく、蕎麦がきや蕎麦餅のような形態であったと考えられています。

戸隠そばの特徴は、挽くときに甘皮を取らない挽きぐるみの蕎麦粉を使用し、延すときは四つ出し（四角く延す）をせずに丸延しにします。そして、一つのざるに五ないしは六束、開口部のつぶれた馬蹄形状に盛る「ぼっち盛り」と呼ばれる独特の盛り付けを行います。ぼっち（束）の数は戸隠内の地域で変わるそうです。

また、地元で取れる根曲り竹で編まれた円形のざるに盛り付けた「ざる蕎麦」は海苔はかけず、薬味には信州の伝統野菜に認定されている地元の「戸隠大根」と呼ばれる辛味大根が使われます。



戸隠の街道から見た戸隠神社中社鳥居

戸隠では、各家庭に蕎麦打ち職人がいると言われるくらい生活に密着しており、観光協会のホームページを見ても人口四、二〇〇人余りの集落に四十二店舗のそば屋が名を連ねているほどです。信州では十月下旬頃から新そば（蕎



「九ぼっち」の特盛りそば

麦）の季節を迎えますが、戸隠のそばは信州の中でも最も有名で、そば祭りも三〇年以上の歴史があります。

以前は、そば祭りの前夜祭にお猪口を購入して二時間食べ歩き放題の「大盤振る舞いそば」が人気でしたが、二〇一四年から「時間制限の食べ歩きはそばをゆっくり味わってもらえない」との理由から、五枚つづり二、〇〇〇円の「半ざる食べ歩き手形」を購入して十一月下旬まで好きな店の新そばを食べ歩けるようになりました。

戸隠の風土と自然条件により育てられた薫り高い風味の霧下そばに、伝統のそば打ち技術と冷たい清水が加わって引き締まった歯ざわりのそばを、皆さんも一度は味わってみては如何でしょうか。



戸隠神社奥社参道

アクセス方法

上信越自動車道信濃町ICから約三〇分

上信越自動車道長野ICから約六〇分
JR長野駅からバス、タクシーで約五〇分